

あーあ…今日も仕事遅くなっちゃった…
はあ…あれ？



.....吉崎さん？



「あ帰ってきた…
おかえりなさい」

あはい…

こんな時間にどうしたんですか？



「また…おかず作りすぎちゃって…
おすそ分け…食べますか？」

えっ…

わわっ ありがとう吉崎さん！
今からなんですごくありがたいです



この人は吉崎さん

隣の部屋に住むとってもキレイで清楚なお姉さんだ…

時々こうやって作りすぎたおかずをおすそ分けしてくれる
僕にとっては天使みたいな存在だ…それにとっても美味しい
キレイで清楚だし (2回目)

神様…吉崎さんに料理を適量作る才能を与えなくてありがとう



…ん？

あれ…こんな時間まで待ってたんですか？
ななんかすいません…

「いえ…そろそろかなってさつき出たところですから…
今からなら料理…温めてきますね」

え…そんな悪いですよ…



「手間じゃないですし」

でも…

「……………ああの…」

その代わりといつてはなんですけど…」

はい



「ごはん…食べてるところ見ていいですか…？」

…え？

「その…やっぱり作った料理を誰かに食べて
もらってるところって見たいし…」

や…その…



「…………駄目…………ですか……？」

だ駄目じゃないけど……

「…………」

全然駄目じゃないです……

うん



「よかった！」

「それじゃ持っていけますから 部屋で待っていてください
すぐに温めてきますね！」

ははい…



タタ…パタン…

…なんだかわからないけど押し切られてしまった…

……

……

……あ！

へ部屋片づけなきゃ…!!

はー…

「ちそうとまでした…おいしかった！」

「ほんとう？よかったあ…」

「やっぱり男の人ですね」

「食べるぶり見てて気持ちいいです」



そ ぞうですか？

「はい♡」

ジー

ジー

んん…見られると照れくわく…



それにさつきから…

なんたる…

この頃頑張りすぎて疲れてるのかな…

なんか妙に意識がそつちに…

うう…駄目だ！

なんか話題…話題…



でも吉崎さんってほんとに料理上手ですよね

普段外食かコンビニ弁当ばかりで味気なくて



だからたまにもらえるおすすそ分けすっつらい楽しみで…

「ふふ…最近遅くまで頑張ってますよね」

「でも私の料理で少しでも

元気になってくれてたなら嬉しいです」

て…天使だ…

「それに…」





「笹塚さんが食べるところ…可愛いし…♡」

じっ♡

え…?

「……」

え…え…?

♡♡

「あの…体…熱くないですか？」

ふへっ…

…………え…あ！

ちよちよつと部屋暑いですよね
エアコン入れませうか…





「いえ…」
すっ…

すっ♡

ズ
oooooooo

おすっ…

あっ…え…

「うちの事です…」

こすっ…♡こすっ…♡

あ…よっ…吉崎さん…!?

すっ♡

すっ♡

いや…それはそのつ…
今…吉崎さんが刺激してるからっ…

「…す…す…固くなっています…」
こすっ…こすっ…



「うそ…

ずっと「こ」…苦しそうにしてました…」

こすっ…♡こすっ…♡

や…その…うあ…

「その…男の人って疲れてると
た溜まるって聞きますし…」

わ私でよければ…楽に…しましょうか？」



すっ♡

すっ♡

っ

じいー…ずりっ

ぼるんっ♡

あつ…

「すーい…ぐっ♡」

えっ…

なんだこれ…僕…こんなじ…

ほろん

ふわ





はぁ... 可愛い... 2...

「はぁ... 凄く硬くなってるしそり...！」

はぁ...♡

はぁ...♡

はぁ...♡

にぎっ♡

さわ……さわ……❤

はあ……はあ……
でも……僕たち……そういう関係でもないのに……

「……………」

さわ

さわ





わわっ...ち近っ...

「笹塚さん...」

すっ
すっ
すっ

すっ

すっ

すっ

すっ

ぴとっ♡

「このまま…スッキリしたく…ないですか…？」

ふ…ふ…ふ…

ぴと

すー♡

すー♡

「大丈夫です

私が笹塚さんのこと…ちゃんと気持ちよくします」

…く…

「普段の仕事の疲れと一緒に出し切っちゃえば…
きつと…凄くきもちいいですよ…♥」

んん♥

んん♥

んん♥

はあ…はあ…





隣人の吉崎さん(仮) ♡ 一日目

……未だに信じられない……夢……じゃないよな
昨日……吉崎さんに……僕……

ってあれっ？



よ吉崎さん…!?



「あ…」

「……………」

……………

き
気まずい…

何を話せばいいんだ…



「ああの…」

ははい…



「昨日は…その…」

笹塚さんの気持ちも考えずにあんなことして…
本当にごめんなさい…」

いや…その…

うう…あらためて思い出すとなんかすごく恥ずかしい…



「あのだから…これ…」

すっ

? これ…??

「こんなの…お詫びになるわけないのはわかってるんだけど…
私こんなことしかできなくて…」

あ…また何か作ってきてくれたのかな…



「笹塚さんが前好きだって言うってた…
ビーフストロガノフ…」

…んん!?

「…?」



.....あ！

そういえばいつだか好きな料理を聞かれた時何も思いつかなくて
適当に「名前が何か強そうが好き」って言った気がする...

「.....?.....?」

古崎さん...僕が言ったそんなこと
覚えててくれたんだ...



.....

あの…吉崎さん

「…はい…」

その…昨日はびっくりしましたけど…

「………」



嫌じゃなかったというか…その…

「…」

んんんんん



だから…その…

こんなに気を使ってもらわなくて大丈夫ですよ

「よよかったあ…」

ほー

すごくホツとしてる…ホントに心配だったのかもしれない…

僕もここで話ができよかった
なんだか落ち着いてきた…



あでも料理ありがとうございます

今日も今からごはんだったんでホントありがたいです。

はは…

ビーフストロガノフってどんな味なんだろう

今更だけど食べたことないからちよつと楽しみ…



「あ、今からでしたら…」

…ん？



「…料理…すぐに温めてきますね…」

え…

「だからその…今日も…」



「食べてるところ…見てもいいですか…？」

あ…

「今日は…何もしませんから…ね？♥」

この流れは…







「はあ…はあ…♡」

「完全に脱がしちゃいました…
もう逃げられませんよ…♡」

はあ♡

はあ♡

よ古崎さんっ!?



「大事なところが全部見えています…❤️」
じいー❤️

♡♡♡♡♡

「あ今日は少し皮被ってるんですね…」
かわいい…❤️



「匂いは…すうすうっ♡」

えっ…ちよっ!? やめっ…

「…♡…笹塚さんのえっちな匂いがします♡
もっ…嗅がせてください…♡」



「はむっ…♡」

むきっ♡

ひゅっ!?

ほむ♡

おんっ♡



「ん……♡」

もつと濃い匂いがする……♡」

よ 吉崎さん……

むわ♡

「これで……笹塚さんの大事なところ……全部丸見えにしちゃいました……♡」



「じゃあ…♡」

も…も…♡

ふ…ふ…

「…今日もいっぱい…ぴゅっぴゅっしようね？♡」

んっ♡

むにっ♡



もにゅっ…♡もにゅっ…♡

う…っあ…♡

うん♡

「…♡

まだこっちを揉んでるだけなのに…

エッチな汁があふれてきましたたふふ…♡」

うん♡

ん♡

ん♡

ん♡

「味は…ちゆうつ…じゆるるっ♡」

うっ…!!?

ほじっ♡ちゅっ…♡ほじっ♡

ふあっ!?!♡んっ…♡

「んっ…♡ほじったらほじった分だけ出てきます♡」

ちゅっ♡

ほじ♡

ほじ♡

んっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

「ちゅぱっ♡♡」

うっ♡♡ はあ…はあ…

「はあ…すごいエッチな味…♡」

ちゅぽ♡

「あの我慢…できないので…」

このまま…食べちゃいますね…♡」

え…？た…たべ…!?

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



う...あ...!?

あむ...♡

あむ...♡

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ



隣人の吉崎さん(仮) ♡ 二日目 前半

はあ—っ♡—はあ—っ♡

な…なんだこれ…ぼ 僕どっちでイって…

ぐぽっ♡

うめっ♡

「……」

じゅり♡

ぐぽ♡

がっ♡

がっ♡

がっ♡



すっ…

「あの…このまま…続けさせてもらいますね」

がっ♡

がっ♡

がっ♡

すっ♡

はあ…はあ…

え…?

がっ♡





のしっ♡

あ...

「……失礼します♡」

のしっ♡

「笹塚さん…」

すっ♡

よ
吉崎さん…



「私今日…」

下着…つけずにきました…」

すっ♡

え…

ぐっ♡

アッ♡

すり…すり…♡

「はしたなくてごめんなさい…」

でも…このまま待ってても…

私のごと襲ってくれなさそうだから…」

ぐっ♡

ぐっ♡

ぐっ♡



「私が笹塚さんのこと……..
襲っちゃいますね……..」

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡





隣人の吉崎さん(仮) ♥ 二日目 後半1

「あっ♡んあっ♡さ
笹塚さんっ♡」

♡りるる♡りるる♡

♡ちゅっ♡

♡ちゅっ♡

♡く♡

♡く♡



「んっ♡あっ…あっ♡」

はあっ…はあっ…
ぱんっ♡ぱんっ♡

ばん♡

ばん♡

ばん♡

ばん♡

ばん♡

「んうっ♡はあっ♡すっごいなんですっ♡」
すっごいっ♡

はあ…はあ…

あ 吉崎さんのお尻の穴…

ぽんっ♡

ぽんっ♡

ぽんっ♡



見たい…

むきっ♡

んっ♡

「あっ!?!♡さ 笹塚さんっ!?!♡

そそんなところ…見ないでくださいっ…!」

…恥ずかしがってる吉崎さん かわいい…

んっ♡

んっ♡

むきっ♡



吉崎さんの「いっ」もっとなんか良く見せてください…

むわっ♡

「い…いやあ…♡」

吉崎さんみたいなキレイな人のお尻
もっとなんか見たいです…

「いっ！♡♡♡」



どちっ♡どちっ♡どちっ♡

「あんっ!♡はうっ!♡んう!♡」

吉崎さんのお尻の穴…凄くかわいいですよ

がっ♡

「いやっ!♡さっ!♡笹塚さんっ!♡んあっ!♡」

がっ♡

がっ♡

見られて興奮してるのかな…さっきよりもずっと激しい

やばい…僕も無茶苦茶興奮してきた…

出る…出るっ…

とちっ♡

とちっ♡

とちっ♡



隣人の吉崎さん(仮) ♡
二日目 後半2